

1 上伊那で最も高い山

塩見岳は、伊那市と静岡県静岡市にまたがる標高 3047m の山で、頂上は上伊那の最高点です（写真1）。伊那市からは、大鹿村の鳥倉林道登山口から三伏峠を経て、塩見岳に至るルートが一般的です。登山道には、南アルプスをつくっているいろいろな岩石や特ちょう的な地形がみられます。



写真1 塩見岳東峰から見える富士山

2 登山道沿いにみられる岩石や地形

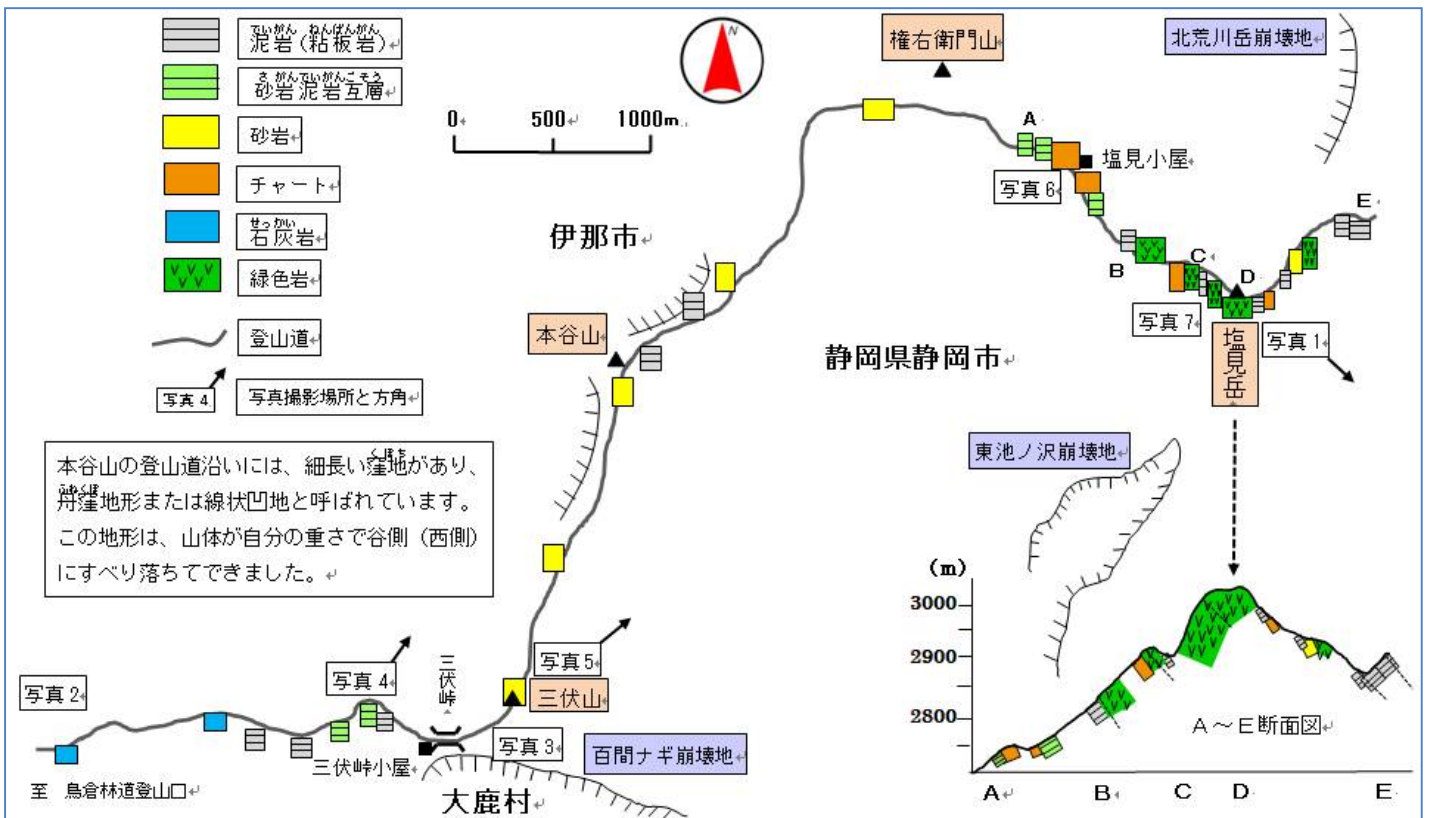


図1 登山道にみられる岩石と地形

① 鳥倉林道から三伏峠へ

三伏峠は伊那谷から甲州 鱈沢へ通じていた古道です。日本の峠として最高地点でした。

写真2 鳥倉林道入り口の石灰岩の大岩壁→



写真3 三伏峠南側、百間ナギと呼ばれている大規模な崩壊地

② 三伏山から塩見小屋へ

三伏山から本谷山付近では、尾根の東側（静岡県側）はゆるやかな斜面であるのに対して、西側（長野県側）は急ながけになっていて、非対称な地形や舟窪地形（線状凹地）が見られます（写真4）。

写真4 本谷山西側（長野県側）のくずれ→



③ 塩見小屋から塩見岳頂上へ



写真5 三伏山から見た塩見岳の尾根

塩見小屋付近は灰白色のチャート（写真6）からできていて、風化や侵食に強いため遠方から見ると凸型の地形になっています。このような地形の起伏は、塩見小屋付近から天狗岩、塩見岳頂上を経て、その先の尾根でみることができます（写真5）。

写真6 塩見小屋付近の激しく褶曲したチャート→

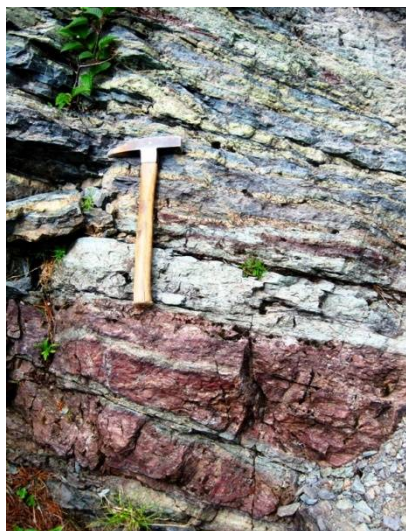


写真7 緑色岩と赤色チャート

天狗岩は、硬い緑色岩と赤色チャート（写真7）が重なり合っているとがった峰をつくっています。また、泥岩からできている東側は侵食されて凹んでいます（図1C）。塩見岳山頂は緑色岩で高い峰をつくっています（図1D）。山頂を過ぎて東側の尾根に入ると、再び泥岩砂岩が見られるようになり、尾根の北西側（長野県側）は削られて急ながけになっています（図1E）。

このように、塩見岳周辺はいろいろな岩石からできていて、侵食の違いによる非対称の地形や岩塔状の起伏がみられます。

【参考文献】

村松 武, 2004, 南アルプスの山旅 地形地質観察ガイド, 飯田市美術博物館, 大鹿村中央構造線博物館ホームページ, 南アルプス登山道沿いの岩石.

URL <http://www.osk.janis.or.jp/~mtl-muse/>